



【ザマアみろり】「次は買えてみよろ」と表彰式でやり取り山口と榎井。



山口隆/松尾博成が7年連続2位の悔しさを一気に晴らした。勝てそうで勝てなかったこのラリーを、勝利が安定した強みもあって初制覇。

「ザマアみろり」は、バルサーGT-Tourerの本場の実力を測る意味で、これまで以上に注目されたイベントだった。結果から先に報告しよう。バルサーはとてつもなく速い!!

バルサーにとっては不利と思われた極悪路のラリーで、ライバルマシンをことごとく蹴散らして「イーヨー」フィニッシュを決めてしまった。そして、その頂点に立ったのが山口隆だ。

【ザマアみろり】

プリアストンの奇襲であり、山口にとっては最大の目標である榎井幸彦に表彰式で放った言葉に、山口の喜びの大きさが感じ取れた。ここ2年間のACCで、山口は完全に抑えられていた。2年前には榎井、山内伸徳とトップ争いを演じて散れど、昨年、ついに連覇まで榎井を上まわった。しかし、結果は2位にこぼまった。山口には「榎井さんに勝つこと」しか願ひがなかった。

そして今回、連覇ではわずかに及ばなかったが、勝利を得た。昨年の逆パターン。50年に足らぬ「F.A.」で初めて全日本戦にチャレンジャーとして以来、7年目にして初めてつかんだ総合優勝だ。それ以上に山口の興奮には、榎井さんに勝った、という思いが強くよぎったはずだ。「ザマアみろり」は山口の嬉しいだけの喜びの表現だったのだろうか。

その榎井、地味ならず絶対的で開幕戦から3戦連続の5連続トップ。ポイントでも早くも200点を踏んだ。が、榎井としては「もう2位はいらぬ」の勢持ちは強い。バルサーのボクシング、セマティンには十分な平ごたえをつかんだ。因襲、広島が榎井にとっては正念場だろう。

さらに、3位の高橋正博、ベテランが完全復活だ。終盤のサスペンショントラブルがなければ山口をも抑えていた。バルサーの完全勝利で、これからのシリーズはより熱を帯びてきた。

【詳細と結果は「イーヨー」ページ】





残り255でのサスペンショントラブルがなければ、優勝カップも手にしていた高崎正博、それでも3位が



「セロイダ」と雪山をあ  
まれさせた高田の秘策は?

## '91ACK SPRING RALLY







**JUSTOP**  
ハイマウント ストップランプ

超高輝度LEDがあなたを守る  
スタンレーの  
ハイマウント ストップランプは  
国産車純正装備率No.1です

車種別取り付けタイプ

**LEDストップランプ JS3102**  
超高輝度LED採用ストップランプ



- 取付可能車種：セダン・ワゴン・クーペ・ハッチバック・2ドア
- 定 価：DC12V・5.8W
- 使 用 光 源：超高輝度LED30個
- 標準小売価格：12,000円

車種別取り付けタイプ

**LEDストップランプ JS4102**  
超高輝度LED採用ストップランプ



- 本 体 色：白・黒
- 取付可能車種：セダン
- 定 価：DC12V・5.8W
- 使 用 光 源：超高輝度LED30個
- 標準小売価格：13,000円

大切な人のために選ぶべきパーツがあります。

ジャストストップは、ドライバーの意思を速く確実に後続車に伝え、安全で無駄のないスマートなカラーリングを約束します。どんな車種にも合うシンプルで美しいデザイン。価格もお求めやすく、取付けは簡単です。

**STANLEY** スタンレー電気株式会社  
STANLEY ELECTRIC CO., LTD.

本社/〒153 東京都目黒区中目黒2-4-13 TEL.03(東京)3710-2322



昨年はまだダートだったオートポリスが完成し、フルコース2トライのSSが行われた。



オートポリスSSで2本ともベストは西尾雄次郎。ニコまではよかったのだが……4位。好調チームイスイズ勢だが、復活した大桃に届かなかった。最上位は小林康晃の2位。







何もなかった車体重量だったが、この時の台風に厚みを感じ勝利。「次はダメでしょう」と開発の発言も。



5.53区間でベストをマーク。完全に車体重量を制御内に入れた超軽量車。



駆け回るクルマの足音に笑顔がひまづる (17) 開発部。

## '91ACK SPRING RALLY



オートボリスらとほかのクラスの選手  
の走りも研究するCクラスの強豪たち。



ワークスマジックカに車正産生が帰って  
きた。約1年間のプランクで愛護者陣は



後援の下でのサービスもまた楽し。スパカじゃなくて各ビールなら買うことなし?

# 修山口を撃破した



「山に入る3ステが勝負!」と闘志をみなぎらせ  
2年分の借りをまとめて返そうと山口は燃えた

## 超高速SSの オートボリス

全日本ラリー選手権シリーズ  
第3戦「ACCスプリングラリー」は、スノーイェント3戦か  
ら約2か月という長いインターバ  
ルを隔けて、4月29・31日の両  
日にかけて開催された。

ACCスプリングラリーは昨  
年、まだ建設中だった丸瀬町の  
サーキット、オートボリスのこ  
いし用に整備されたオートを使  
い、アスレージスデイド1000  
km/ltサーボのハイスピード  
走車を行い話題を呼んだ。その  
オートボリスが昨年暮れに完成  
したため、今回はフルコースを  
使ったサーキットランを55と  
して設定。つまりタイムトライ  
アル””している。それも、

「当初、オートボリスの建設費  
原に特設会場を設けて、タイム  
アル走車を行う予定でしたが、  
建設高層が現在工事中でコース  
を確保できませんでした。その  
ため、1トライだけにすもつも  
りだったオートボリスの走車を  
3トライすることになりました」

## 3年目にして“天敵”

会心の  
「桜井さん！  
ザマァ見る！」

■ダートイベントに突入した全日本ラリー選手権で、いきなり速さを見せつけたのがバルサーGT—R勢だった。大詰めの第3ステージ、雌雄を決するべく、「山」へ向かった高崎正博、山口修、そして桜井幸彦。一進一退の攻防戦はラスト2SSとなったところで、大きなドラマが起こった。そして最後に笑ったのは——。(村井 豊)

(鹿児島県伊佐市)

というように、ベイトレインの出口からスタートし、ベイトレインの入り口付近でゴールという、インストロートの一部を除くアルユース、約4kmのサーキットが3区間設定された。ベストタイム(西尾雄次郎、ヤマトVエース)のアベレージが1分58秒/周という、異例のハイスピードSSとなった。ラリーは、20日の正午に異年ぶりに城島高原をスタートし、翌日午前4時ごろにゴールする3ステージ制、最近の全日本としては、長時間のイベントといえるだろう。ゴール後の選手のコ멘トも、

「ラリーらしいラリーだったね。結構長く走らせてくれるラリーは好きなのはうだから、面白かったよ。」(加藤 健)

とおおむね好評だった。

各ステージの設定は、第1ステージが今回の目玉であるオートボクシングのためのステージ、城島高原をスタートして、阿蘇の名所やまなみハイウェイを風向き確認かけてオートボクスへ行く、そして駐車場を迂回したじゅんこーナナスと、オートボクスサーキット2SSをこなす、再び城島高原のサーピスに戻る設定だ。この区間に關しては、選手側からも

「何もオートボクスまで行くことはない。その道のりがムダ。オートボクス集合をスタートにして、第2ステージで城島高原に戻るルートにラリー区間、SSを設定することもできたのではないかと」

という不満が湧いた。そのあたりを主催者代表の徳尾健夫氏に聞くと、

「確かにそういう考えもありです。今後、オートボクスが継続的に使えるのであれば、早急には検討する価値はありますね」という答え。新たな展開に期待したいところだ。

話を戻そう。続く第4ステージは、SSが1区間あるものの、TCTPのサーキットエリア区間が削かれたナビゲーターメセナシ



「そして、最終第3ステージは、SSが7区間設定され、それを7CPのリライアビリティ区間でつなぐ、ドライバーズセクションとなっていた。」

「ドライバーの第1戦目となった今回のラリー、スタート直後の活劇は、何といってもバルサーGT1-Rのダートセクションの熟成度だ。ちなみに、Cクラス2位の内訳は、バルサーがトップシェアで13台、ポーターが11台、レガシィが4台、セリカが3台、ファミリアが後藤正和1台と、バルサーユーザが一段と増している。」

「そのなかでも、前年優勝の松井幸彦、前年SSトップの山口チーム神奈川日産が1—2

「みなさん、ぼくがトリアル

「勝が最も注目される。ともに、第3戦からのインカバルの間に十分ダートペースを進めていた。彼らのほかにも、岐阜美津雄を筆頭に、チーム神奈川日産の高崎正博、島田親吉、前田TRCAで速いところを見せた原山陽彦、地元九州のベテラン中村芳徳ら、注目すべき選手は多い。高崎は、

「かなりバルサーは熟成された。ウチではみなさんと違っていた方向でセクションを進めているようだが、第3戦には自信を持って挑めます。」

「とイベント前から自信ありげ。もちろん、ほかの有力ドライバーもそうだろう。」

「形式のSSがあると本命といわれてきましたが、ラリー中のトリアルは、どうも具合が空回りするの、ポカが多いんですよ。」

「いつも話す西尾だが、SS1のジュカリーナSSでは慎重に、そして大胆に攻めて52秒で走りきりベストタイムをマークした。もちろん、恒距離(約1km)の区間だけに、最終タイムでも58秒。各選手とも1—2秒



「勝が最も注目される。ともに、第3戦からのインカバルの間に十分ダートペースを進めていた。彼らのほかにも、岐阜美津雄を筆頭に、チーム神奈川日産の高崎正博、島田親吉、前田TRCAで速いところを見せた原山陽彦、地元九州のベテラン中村芳徳ら、注目すべき選手は多い。高崎は、

「その間に集中している。そして、オートボリスSS、学生時代は3輪のロードレースをやった、その後モーターサイクルを経験して、ダートに転向したという西尾。オートボリスSSは大きくテールを振り出しながら、思いきり攻めきった。とにかくアクセルを踏み込まない。そんな激しい走り、このダートライをとにもベストタイム。SS1から3連続ベストタイムをたたき出して、まずラリーリーダーの座に就いた。」

「山に入ってからの勝負ですが、と慎重なコメントながら、気分は悪いはずがない。西尾に続いたのは、ベテラン加勢裕二/北野元。そして島田親吉/高岡勇二がバルサー勢トップ、西尾に5秒差の3位につけた。実

「勝が最も注目される。ともに、第3戦からのインカバルの間に十分ダートペースを進めていた。彼らのほかにも、岐阜美津雄を筆頭に、チーム神奈川日産の高崎正博、島田親吉、前田TRCAで速いところを見せた原山陽彦、地元九州のベテラン中村芳徳ら、注目すべき選手は多い。高崎は、

「勝が最も注目される。ともに、第3戦からのインカバルの間に十分ダートペースを進めていた。彼らのほかにも、岐阜美津雄を筆頭に、チーム神奈川日産の高崎正博、島田親吉、前田TRCAで速いところを見せた原山陽彦、地元九州のベテラン中村芳徳ら、注目すべき選手は多い。高崎は、

「勝が最も注目される。ともに、第3戦からのインカバルの間に十分ダートペースを進めていた。彼らのほかにも、岐阜美津雄を筆頭に、チーム神奈川日産の高崎正博、島田親吉、前田TRCAで速いところを見せた原山陽彦、地元九州のベテラン中村芳徳ら、注目すべき選手は多い。高崎は、

「勝が最も注目される。ともに、第3戦からのインカバルの間に十分ダートペースを進めていた。彼らのほかにも、岐阜美津雄を筆頭に、チーム神奈川日産の高崎正博、島田親吉、前田TRCAで速いところを見せた原山陽彦、地元九州のベテラン中村芳徳ら、注目すべき選手は多い。高崎は、

「勝が最も注目される。ともに、第3戦からのインカバルの間に十分ダートペースを進めていた。彼らのほかにも、岐阜美津雄を筆頭に、チーム神奈川日産の高崎正博、島田親吉、前田TRCAで速いところを見せた原山陽彦、地元九州のベテラン中村芳徳ら、注目すべき選手は多い。高崎は、



プロサイクリングの総集編!! 遊タマラリー・グランド・スプリント 全3巻 絶賛発売中

好成績をし、鞍部もSSを前記のように5位タイで上がっている。これで鞍部は高崎と並んだ。さらに、本命山口も続いた。山口はSSでは3秒差の3位ながら、松尾ナビが5点で抑え、トップ島田に3秒差まで追い上げている。

「このラリーは絶対に取りたいラリー」といふ山口の気持が伝わってきそうな迫り上げた。もちろん、勝負は3ステアの林道SSですよ。きょうは絶対負けません」と山口がいうように、3ステア勝負は、上位陣の合言葉だった。彼ら5クルーがトータルで550点台。続く60点台には、神岡(61点)、加勢(62点)、杉本、前嶋光男/岡本敏(63点)、そして板井/大藤敏夫は、ドライパー、ナビともまだエンジンがかかってきていないように10位(64点)にとどまっている。以下、山内伸亮/遠藤彰(66点)、大庭

速さで負けても勝負に勝つ

3ステアが勝負」と各選手がサイプレスで手ぐすね引いた第3ステージは、ターマッタSS3区間、ダートSS4区間、合計20・24kmのSSが用意されている。

このステージがスタートしてすぐに、あろうことが島田がラ

談介/小田切 順之(67点)のアドバン・タス力勢という順で上位のオーダーが形成された。

彼らトップグループとは対照的に、第3ステージで優勝争いから脱落してしまつたクルーもいる。第1ステ

ージを好タイムで上がった景山と中村だ。ともに序盤のラリー1区間で大量減点をくつしまつたのだ。特に中村は、その後のSSで2区間ベストタイムをマーク、各SSでも数秒差の好タイムを記録して、SSスタートでトップタイムの速さを見せつけているだけに、悔やみきれなかつただろう。

1区間あたり1秒つめれば、計算上では大庭まで十分チャンスが残されている。

このステージがスタートして

順位	選手名	チーム	タイム	失点	備考
1	高田	高田	1:00.00	0	
2	山口	山口	1:00.00	0	
3	松尾	松尾	1:00.00	0	
4	島田	島田	1:00.00	0	
5	神岡	神岡	1:00.00	0	
6	加勢	加勢	1:00.00	0	
7	杉本	杉本	1:00.00	0	
8	前嶋	前嶋	1:00.00	0	
9	岡本	岡本	1:00.00	0	
10	板井	板井	1:00.00	0	
11	大藤	大藤	1:00.00	0	
12	山内	山内	1:00.00	0	
13	遠藤	遠藤	1:00.00	0	
14	大庭	大庭	1:00.00	0	
15	高崎	高崎	1:00.00	0	
16	松尾	松尾	1:00.00	0	
17	島田	島田	1:00.00	0	
18	神岡	神岡	1:00.00	0	
19	加勢	加勢	1:00.00	0	
20	杉本	杉本	1:00.00	0	
21	前嶋	前嶋	1:00.00	0	
22	岡本	岡本	1:00.00	0	
23	板井	板井	1:00.00	0	
24	大藤	大藤	1:00.00	0	
25	山内	山内	1:00.00	0	
26	遠藤	遠藤	1:00.00	0	
27	大庭	大庭	1:00.00	0	
28	高崎	高崎	1:00.00	0	
29	松尾	松尾	1:00.00	0	
30	島田	島田	1:00.00	0	
31	神岡	神岡	1:00.00	0	
32	加勢	加勢	1:00.00	0	
33	杉本	杉本	1:00.00	0	
34	前嶋	前嶋	1:00.00	0	
35	岡本	岡本	1:00.00	0	
36	板井	板井	1:00.00	0	
37	大藤	大藤	1:00.00	0	
38	山内	山内	1:00.00	0	
39	遠藤	遠藤	1:00.00	0	
40	大庭	大庭	1:00.00	0	
41	高崎	高崎	1:00.00	0	
42	松尾	松尾	1:00.00	0	
43	島田	島田	1:00.00	0	
44	神岡	神岡	1:00.00	0	
45	加勢	加勢	1:00.00	0	
46	杉本	杉本	1:00.00	0	
47	前嶋	前嶋	1:00.00	0	
48	岡本	岡本	1:00.00	0	
49	板井	板井	1:00.00	0	
50	大藤	大藤	1:00.00	0	
51	山内	山内	1:00.00	0	
52	遠藤	遠藤	1:00.00	0	
53	大庭	大庭	1:00.00	0	
54	高崎	高崎	1:00.00	0	
55	松尾	松尾	1:00.00	0	
56	島田	島田	1:00.00	0	
57	神岡	神岡	1:00.00	0	
58	加勢	加勢	1:00.00	0	
59	杉本	杉本	1:00.00	0	
60	前嶋	前嶋	1:00.00	0	
61	岡本	岡本	1:00.00	0	
62	板井	板井	1:00.00	0	
63	大藤	大藤	1:00.00	0	
64	山内	山内	1:00.00	0	
65	遠藤	遠藤	1:00.00	0	
66	大庭	大庭	1:00.00	0	
67	高崎	高崎	1:00.00	0	
68	松尾	松尾	1:00.00	0	
69	島田	島田	1:00.00	0	
70	神岡	神岡	1:00.00	0	
71	加勢	加勢	1:00.00	0	
72	杉本	杉本	1:00.00	0	
73	前嶋	前嶋	1:00.00	0	
74	岡本	岡本	1:00.00	0	
75	板井	板井	1:00.00	0	
76	大藤	大藤	1:00.00	0	
77	山内	山内	1:00.00	0	
78	遠藤	遠藤	1:00.00	0	
79	大庭	大庭	1:00.00	0	
80	高崎	高崎	1:00.00	0	
81	松尾	松尾	1:00.00	0	
82	島田	島田	1:00.00	0	
83	神岡	神岡	1:00.00	0	
84	加勢	加勢	1:00.00	0	
85	杉本	杉本	1:00.00	0	
86	前嶋	前嶋	1:00.00	0	
87	岡本	岡本	1:00.00	0	
88	板井	板井	1:00.00	0	
89	大藤	大藤	1:00.00	0	
90	山内	山内	1:00.00	0	
91	遠藤	遠藤	1:00.00	0	
92	大庭	大庭	1:00.00	0	
93	高崎	高崎	1:00.00	0	
94	松尾	松尾	1:00.00	0	
95	島田	島田	1:00.00	0	
96	神岡	神岡	1:00.00	0	
97	加勢	加勢	1:00.00	0	
98	杉本	杉本	1:00.00	0	
99	前嶋	前嶋	1:00.00	0	
100	岡本	岡本	1:00.00	0	

1区間でミスコースしてしまつた。ここで25点。さらに、「ミスコースの嵐だよ」と苦笑いをするが、16、24C Pで取り返しようがない20、101点の大量減点を受けてしまつた。SSでは2区間ベストタイムをマークしたが、ミスコースの動揺からか、ほかのSSでは走りか乱れてトップとトータルで25秒差。だが、今回の島田の健闘は、今シーズンを占う意味で興味深いし、評価されていいだろう。

島田のミスでトップにたつたのが高崎だ。高崎は3ステア最初のSS5でトップタイの快走を見せた。道に高崎と並んでいた鞍部はここでペースト。このSS以降もペーストに苦しんで、「最後のほうは右2輪が傾装用のセミレインジングで、左2輪がダート用タイヤになってしまつた。3ステアに入っていくなりだつたからね。ダートの実戦テストもできなかったよ。まあ次に期待してよ。」

ズルズルと後退し、結局9位まで順位を落としてしまつた。さらに、山内も3ステアに入るとペースダウン。

「ペーストからサスペンションを傷めた。ロワーアームのボールジョイントが緩んだし、ショッタアブソーバーも抜けちゃつた。怖くてまともに踏めなかつた。」

彼らをシフト目に浮上してきたのが、山口と板井だ。SS5で高崎、中村らと同様のベストを度切りに、高崎を追い上げ始め

M1: ミッショントラブル M2: エンジントラブル M3: サスペンショントラブル C1: クラッチトラブル C2: コースアウト B: パースト 9: 9時 9時: ドライバー体調不良 M0: ミスコース





応援します!!  
モータースポーツ。

(スタッフがあなたと一緒にステキなオリジナルを、お創りします。)

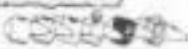


ステッカー

ITEMS

- ウインドブレーカー
- ジャンパー
- トレーナー
- Tシャツ
- ヨットパーカー
- ポロシャツ
- はっぴ
- エプロン
- ワッペン
- ししゅう
- キャップ etc.

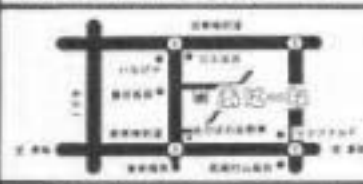
「FRESH PERFORMANCE」  
「EASY TO CLEAN」  
「STAY COOL」



商品全国配送OK!

電話orはがきでお気軽にご連絡下さい  
くわしい資料をお送りします。

ORIGINAL-PRINT-WEAR  
sportsfashionあに〜な



東京都武蔵村山市三ツ木1-204-47

0425-60-1229

チームのオリジナルブランド作りませんか?

勝っていた選手を見つけた。特にターマックスSSでは、4区間ともベストタイムで上がっている。その原動力となったのは、ベテランならではの「ヨイ、セッティングが当たったこと」も理由にあげられる。

「今回はサーヤットがあるってことと、調子が結構ありそうだという情報が入ったので、思いきってターマックスを練習用に振ってきんだ」

通常マシンのチューナーは、ダートでの路面干渉とトラクションの減少を考慮して、スプリングを硬く調整していない。だが、今回の大機は、スタビライザーを装着した。

「ダートでの路面干渉は、特に気にならなかったね」

これが見事に当たった。ターマックスだけでなく、ハイス

ピードコースのSSでも、ベストの小西選手に1秒落ち、別コースのSS9ではベストタイムをたたき出している。当然練習用にサスペンションを仕上げていけば、ダートでは動きが衝突になる。そのマシンをコントロールしたのだから、大機がいかに乗っていたか、よくわかるだろう。

大機の度でウカウカしていられたくなったチームイースト勢は、ユースが前記のようにリタイヤしたが、小西がダートのSSをベストで上がり2位、小林選手が3位でフィニッシュしている。チームイースト以外、主役不足のベテランは、ベテラン復活は、これからのシリーズを



オートポリス交差点を渡る栗津原と僕

白くしてくれるカンパル利になるだろう。

Aクラスは、ゴール後栗津原君の笑顔が引きつった。優勝したにもかかわらず、まるで敗者のような顔だ。

「サバイドすよ、西田(敬夫)」

さんがリタイヤしなかったら、負けていたかもしれない。栗田(敬夫)さんとも8秒差でしょ(SSスタートは秒差)。ミラはもう少し直つてくるでしょうし、こっちはもう仕上がったクルマですから、やりようがない。こりゃサバイドすよ」というのだ。栗津原は、オートポリスSSでこそ、ニンリンが高回転駆動のアルトの特性を生かしてトップにたったのだが、2ステSS4で1秒、3ステSS5で3秒、ともにベストタイムの西田に食けている。その西田は、今回からタイヤサイズを12インチに下げて挑んでいる。

「12インチの没入がごまかしが利くんですよ。もちろん、絶対的なトラクションは12インチのほうが高いですよ。でも、ラリー1みたいな未知のコースを走る

場合には、ごまかしが利いたほうがタイムが出やすいでしょ」という理由なのだが、それが当たったようだ。しかし、栗津原との戦いで優位にたち、トップで迎えたラリー区間でパースト。続くSSのスタート時間に間に合わず、結局、リタイヤとなってしまった。今回の結果から判断すると、アルトとミラの差は、なにに等しいといっていだろ。栗津原もそろそろマージンを残した走りでも優勝をさちることが難しくなってきた。

「やりようがないですからね。次までに、各部をリフレッシュして、キャッチ作り直すつもりですがどうでしょう」

これまでに、栗津原の独壇場だったAクラスも、シリーズが進むにつれ、接戦の面白い展開になりそうだ。



# 草加浩平の ナビ講座

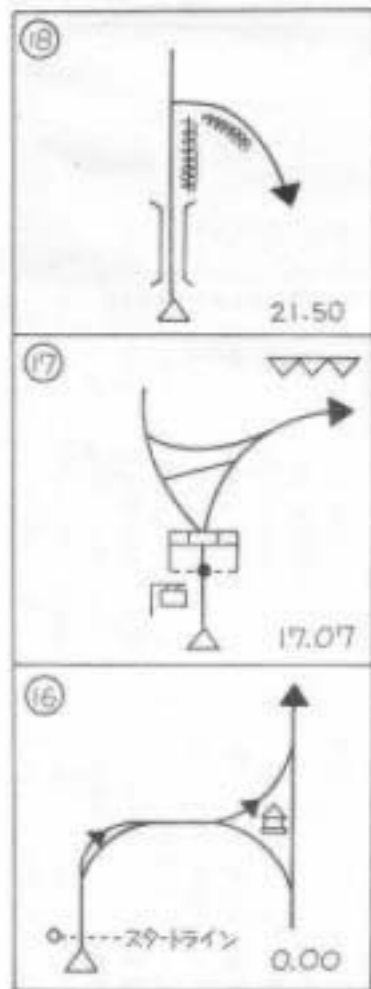
## 「ラリーを読め！」

指示書でわかるラリーの組み立て

第2戦の旭川のスノーイベントをイギリス出張で欠席したばかりとあって、2か月ぶりのラリーとなったACKスプリングラリー。昨年、一昨年と2連勝したラリーであり、当然今回も優勝を意図して臨んだ。

昨年は工事中だったオートボリスがすでに完成し、今回はここでSSが行われることになっていた。このため用意したタイヤはサーキット用のダンロップ・フォーミュラRの185/60-14と、ダート用のダンロップ

第1ステージは予想どおりの幕開けとなった。オープンしたばかりのオートボリスはとて立派で、さすが最先端のサーキットと思わせるに十分なものであった。しかし、約3km地点から最終コーナーにかけての1kmで約50m上る部分では、パワリーの差が出てしまい、サーキット走行のSSでは1本当たり6〜8秒の差をつけられてしまった。



第1ステージを終わったところで成績を比較すると、Bのトップは加藤剛選手。われわれは15秒の差をつけられ、やっと1

# スタート前のコース図解析とデータを活用し ミスコースが続出したコマ図も難なくクリア

第1ステージを終わったところで成績を比較すると、Bのトップは加藤剛選手。われわれは15秒の差をつけられ、やっと1

## コマ図に記された距離で補正

夜8時にスタートした第2ステージからが、本格的ラリーの始まりだった。今回の設定では、特にオドメーターコンソールポイントに設けられておらず、代わりに各コマ地図にスタートからの距離が10m単位で記入されていた。各員がこのデー

タを基に補正を加えていく方式だ。今回の距離の計測は、各コマ地図地点のハンドルの切り始めの点で行われており、その意味では少キ計測誤差の出やすい設定だった。スタートから10kmコマ地図に指定されたなか

かなかった。図に示すように1つ目は電光掲示板での計測なので、計測地点がはっきりしているが、2つ目ははっきりしない。原則的に長い距離の区間で補正をとるようになるが、計測地点のはっきりしているところで補正したほうが確実ということもいえる。ぼくの場合、次のようにしてオドをとった。

まず最初のコマ地図(17図)で補正率を算出する。これに次のコマ地図地点(18図)までの区間距離を掛けて、18図地点を予測する。実際に18図地点に行



ったところ、予想したより区間距離で約10m少なめに出了。  
そこで18区地点で計測するときは、ハンドルの切り始めの地点を考えられる範囲で少々奥に

## データを信じミスコース回避

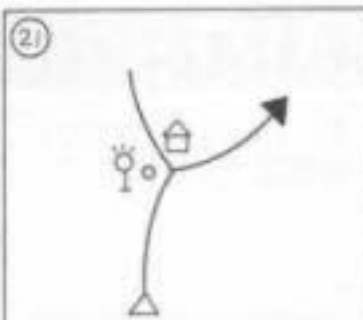
第2ステージ開始早々、アベ36km/hで走行中の21区で、ミスコースが続出した。路面が悪く、アベ36km/hでもかなり引っかく(われわれの場合2・5kmで約120m)ので、正確な距離をつかみにくかったことと、図に示すように実際のコース形状の印象(観角右)とコマ地図の形状が少々異なっているために起こったことだ。21区の220m先に最初のチェックポイントである5C/Pが出てきたために、ミスコースしたドライバーは大量減点を

とって計画した。そのうえで、補正率としてはスタート(16区)から18区までの距離をベースに算出したものを用いることとした。

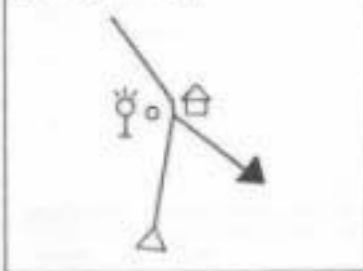
くうこととなった。

結果的には5C/Pで計時ミスがあったため、この区間はヤヤンセルになった。ミスコースしたドライバーは数えられることとなったが、出だしでのつまずきだけに、ドライバーに与えたショックは大きかったと思う。わがチームの小西輝男/中田若吾組もここでミスコースし、落ち込んでいた。

実はこの区間は昨年も走っており、われわれはこの点に気づいていたため、昨年の区間距離



(実際mE印象)



の狂いのデータ(昨年は108m引っかいた)をあらかじめ調べておいた。このため、コマ地図の形状が少々違う気はしたものの、距離のデータを信用できたので、ミスコースせずに通過することができた。スタート前のコース図解析作業と、以前のデータ活用の有効性が発揮された好例といえよう。

さらに昨年のデータから2次補正を行っていたので(2・5kmで約100m引っかくとして1km当たり4秒先行させた)、21区地点をほぼオンタイムで通過できた。当然21区で計測した



サスペンションももげてリタイヤとなり連続入賞がストップ

区間距離データで再度2次補正するので、21区の220m先に入った5C/Pには2秒の誤差で入ることができた。このように、従来のデータを生かした2次補正も有効だ。

## ACK3年連続優勝はならず

結局第3ステージは上りの舗装SSでマーチ勢に負けたりしたので、ラリー区間を無難にまとめたため、2番手の減点で上がることができた。これでトータ

ル2位まで浮上した。車は真選手と9秒の差はあるものの、第3ステージはSSが多いので、

道の悪い九州ではマーチ勢には不利なはず(パワーステアリングがない)、予定とおり優勝をねらえるところまで来たという感じだった。

順調にチェックをこなしていたが、2本目のSSである16C/Pをスタートした直後の右コーナ

一瞬リヤがアウトへ出たのでカウンターの当たるところ避にしりを振り、右コーナーのインにあった壁に右リタイヤをヒートしてしまった。このためリヤサスのリンクが折れてしまい、まともに走れない状態になってしまった。結局このSSは走ったもののリタイヤ。3年連続優勝の目標はついでに失った。特に勢いをあせったわけでもないのだが、観戦手としては珍しくクルマを壊してのリタイヤとなり、昨年のコンビ達成以来続いていた連続入賞も、ここでストップしてしまった。

ラリーのほうは大橋千明選手が舗装のSSで頑張り優勝。5C/Pがキャンセルになったため小西/中田組が浮上し2位、3位には小林康晃/辻井利宏組のジュミニが入った。

ラリーは最後までわからないものだ。5C/P手前でミスコースし、大量減点を受けて落ち込んでいた小西/中田組が、最後まであきらめずに頑張る2位になった。なかなか立派だと思おう。途中でリタイヤしてしまい、最後までラリーを楽しめなかったのが残念だが、次の4区では再び3年連続優勝をねらって頑張るつもりだ。